

大学の世界展開力強化事業 構想概要 大阪大学

【構想の名称】(タイプA-II)

「アジア平和＝人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成。

【構想の概要】

日本と東南アジアの9大学が連携し、国連平和大学と提携しながら、歴史に学び、多様性を重んじ、共通課題に協力して取り組む精神と方法を学ぶ場の構築を通じて、地域社会ひいては地球社会の未来を担う政策リーダーを育成する。平和構築、社会開発、多文化共生、健康開発を重点テーマとする。

■ プログラムの目的・養成する人材像

高い理想、柔軟な発想、的確な知識、協調性

国際社会が直面する複雑で困難な諸問題＝紛争、貧困、差別、疾病等＝を克服するために、高い理想と柔軟な発想をもち、的確な知識を身につけ、隣人とともに手を携え、協力して取り組める次世代の有為な人材を養成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

「アジア平和＝人間の安全保障大学連合」の形成

大阪大学国際公共政策研究科を主幹として、広島大学国際協力研究科、長崎大学国際健康開発研究科、名桜大学国際文化研究科、デ・ラ・サール大学、パヤップ大学、ナンヤン工科大学、シアークアラ大学、東ティモール国立大学が連合を組み、単位互換を含む大学間協定を結ぶ。カリキュラムについて国連平和大学と提携する。プログラムはメイン(1セメスター)とサブ(短期)、両方を行う「連結型」を用意する。

メイン・プログラム

1セメスター(6か月)の期間、日本の大学から東南アジアの大学へ、東南アジアの大学から日本の大学へ学生を相互に派遣し、それぞれの専門分野での交流を行う。いずれの場合も、フィールド調査、インターンシップ等、多彩な内容を盛り込むことが可能である。

サブ・プログラム

10日間の日本プログラムは東南アジアからの留学生を対象に日本で行い、平和と人間の安全保障をテーマとする理論学習と平和学習(広島・長崎・沖縄)を柱とする。2週間の東南アジアプログラムは日本の学生を対象に東南アジアの大学で行い、同様のテーマの下、各地の特徴をいかしたケーススタディー、フィールド・トリップを柱とする。いずれのプログラムでも学生自らが研究発表を行うワークショップで締めくくる。

(シアークアラ大学のある津波の被災地であり、長い間紛争地でもあったアチエのモスク)



■ 教育内容の可視化・成果の普及

ITネットワークを駆使した可視化・普及

日英両言語によるホームページの開設、成果の発表を行うオンライン・ジャーナルの発行、SNS(ソーシャルネットワークサービス)を利用した学生主体のコミュニケーション、ネットワーキングを目的とするセミナー、ワークショップ、シンポジウムの開催を通じて可視化・普及を図る。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入れを促進するための環境整備

日本人学生の派遣促進

東南アジアの大学との単位互換を含む大学間協定を締結する。各大学に平和＝人間の安全保障をテーマとする授業ないしはプログラムを開設し、英語教育の強化、東南アジア各言語の講習、フィールド調査のファシリテーション等を行う。

留学生の受入れ促進

上記の大学間協定に加え、受入れ大学での日本語教育の強化、チューター制度、フィールド調査、インターンシップ等の多様なニーズに対応できる留学生対応窓口の設置を行う。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

毎年、厳正な審査を経て、サブ・プログラムに12名、メイン・プログラムに8名を派遣する。

○ 留学生の受入れ

毎年、厳正な審査を経て、サブ・プログラムに10名、メイン・プログラムに10名を受け入れる。

(国立東ティモール大学を訪問した
2010年夏季ツアー)



	H23	H24	H25	H26	H27
派遣	12	20	20	20	20
受入れ	10	20	20	20	20